



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing

— JSPON —

News Letter Vol.34



暑かった夏が終わり、やっと秋らしなってきました。そして第22回学術集会の日程が近づいてまいりました。2024年の出生数は60万人台であると予測されている中、大切にしなければならない子どもや家族への支援を皆様と共に考えていきたいと思っております。

第22回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

この度の学術集会のテーマは、「Always with You～がんの子どもに寄り添う臨床と研究」です。近年、小児がんの診断を受けた子どもの長期生存が可能となり、これは、医学の進歩、すなわち研究成果が子どものいる臨床に届いているからに他なりません。一方、小児がんの診断を受けた子どもは、治療によるさまざまな副作用や晚期合併症など身体的な苦痛だけでなく、心理・社会的な苦痛も経験していることが考えられます。子どもが治療を受ける毎日の生活の中で、少しでも安楽にその子どもらしく過ごし、成長発達を遂げること、そして、小児がんを経験しても、あるいは経験したからこそ、その先の人生を「自分」として健やかに生きることができるよう、質の高いケアを届けることが、小児看護の大きな役割です。質の高いケアは、臨床での経験知とともに、研究的な取り組みによる最新の知見があってこそ導かれます。今回のテーマは、まさに、治療を受ける子ども、そしてその家族の最も近くにいる看護師のありようを示すものであり、今後さらに求められる小児がんの子どもへの看護のあるべき姿だと考えています。

もう一つ、質の高いケアを子どもに届ける上で大切なことがあると考えています。それは、ケアを提供する私たち自身も安寧であることです。今回の学術集会で、新たな

知見・知識を学び、同じ志をもつ仲間と出会い、語り合い、つながることで、参加されるみなさまが元気になって、日々の実践や研究や教育の場に戻ることができるよう機会となることを願っています。

プログラムを少しご紹介します。看護シンポジウムは「こどもとの対話～本当のこどもの「こえ」を聴けていますか～」とし、シンポジウムに先立ち『小児がん病棟の子どもたち』の著者である田代順先生の基調講演を企画しました。特別講演は、京都大学大学院人間・環境学研究科の佐藤泰子先生に「忠犬ハチ公はなぜ待ち続けたのかー生きる意味は誰かとの間(あわい)にー」というテーマでお話いただきます。また、日本小児がん看護学会国際交流委員会企画の国際セミナーを学会の教育講演と位置づけ、Dana-Farber Center Institute の Jennifer W. Mack 博士に、小児がんの子どもへの終末期の shared decision making (共同意思決定:SDM) についてご講演いただきます。さらに、参加型プログラムとして、「日々のもやもや、何とかしたい!看護師の声、出し合いませんか。～リサーチカフェにおこしやす～」を企画しました。また、今回、60近い一般演題の登録を頂きました。たくさんのエントリーに感謝申し上げます。当日は、会場のさまざまな場所で熱い議論が展開されることを期待しております。

「来てよかった」と感じていただける学術集会になるよう努めますので、どうぞみなさま、歴史ある京都にお越しいただきますよう、よろしく願いいたします。

第22回日本小児がん看護学会学術集会 会長
三重大学大学院医学系研究科看護学専攻
小児看護学分野 松岡真里

開催概要

- 【 テーマ 】 「Always with You～がんの子どもに寄り添う臨床と研究」
- 【 会期 】 2024年12月13日(金)～15日(日)
- 【 会場 】 国立京都国際会館
- 【 開催形態 】 現地開催 一部オンデマンド配信

主なプログラム

- | | |
|--|--|
| 看護特別講演 | 忠犬ハチ公はなぜ待ち続けたのかー生きる意味は誰かとの間(あわい)にー |
| 国際交流委員会企画 第3回国際セミナー・看護教育講演 | Shared decision-making in the care of children, adolescents, and young adults with advanced cancer |
| 看護基調講演 | 小児がん病棟の子どもたち-病棟社会における子どもと家族の「情景」、そしてナラティブから- |
| 看護シンポジウム | こどもとの対話～本当のこどもの「こえ」を聴けていますか～ |
| 教委員会企画セミナー | いまさら聞けない小児がんのこどもの放射線治療 |
| ケア検討委員会企画ワークショップ | こどものがん薬物療法における曝露対策～こどもの生活場面に着目した手引き～ |
| JSPON 学術推進委員会&第22回学術集会合同企画ワークショップワークショップ | 日々のもやもや、何とかしたい!看護師の声出し合いませんか～リサーチカフェにおこしやす～ |
| 3団体合同シンポジウム | こどもたちが成長していく中での療養環境～こどもたちにとって何が大切?～ |
| 2学会合同シンポジウム | 未来を見守る小児がん医療:長期フォローアップと成人移行を考える |



★小児がん看護研修制度について★

特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の活動目的の一つに、小児がんのこどもと家族を支援する看護職・関連職種およびその他支援に携わる方々に対し「より高度な知識・技術を得るための研鑽の機会を提供し、看護実践と教育・研究の向上・発展に資すること」があります。2023年9月の総会にて、2020年より開始した「日本小児がん看護学会認定 小児がん看護師」制度を継続可能な形に改定することが決まりました。

新たな「小児がん看護研修制度」は、e-ラーニングである【基礎コース】、【上級コース】と、集合研修である【実践コース】の3段階のコースに再構成されました。2024年6月に募集再開をしたe-ラーニングは、看護職に限らず、非会員でも受講可能とし、随時受講申込を受け付ける体制となりました。小児がんのこどもと家族の支援に携わる方々に広くご活用いただけることを切に願っております。

e-ラーニングを修了した看護師かつ学会員を要件とする【実践コース】は年2回開催予定で、講義およびグループディスカッションを通して、小児がんのトータルケアを実践する力を養うことを目指します。2024年は3月23日と10月12日にWEB開催し、制度移行により待機をお願いしていた15名の方にご参加をいただきました。

小児がん看護研修制度公式サイトには、小児がん看護研修制度概要と制度移行および新制度についてのQ&A集を掲載しております。受講にあたってはそれらをご確認のうえ、同サイト内の申込フォームからお申込みください。お問い合わせやご意見などは、小児がん看護研修制度事務局にメールにてお寄せください。

研修制度委員会としては、引き続き研修の運営にあたり、制度移行に伴い継続して検討を要とする課題についても取り組んで参ります。

小児がん看護研修制度公式サイト

<https://www.jspon.com/learning/>



小児がん看護研修制度事務局メールアドレス

jspon.lms@gmail.com

研修制度委員会委員長
古橋知子



★SIOP Asia2024のご報告★

2024年6月22日(土)~6月25日(火)、パシフィコ横浜ノースでSIOP Asia2024が開催されました。43カ国から700名を超える参加者が集い、看護師も約80名の参加がありました。看護セッションは、5つのテーマセッション、特別講演、口演発表12演題、ポスター発表20演題で構成しました。テーマセッション「小児がん看護のグローバルな質向上」では、米国の看護師から看護の枠組みと質の指標等の発表がされました。「小児がんのこどもと家族への多職種による心理的サポート」では、クリニックラウンやファシリテイドッグとハンドラーによる発表がありました。また、「抗腫瘍薬の曝露防止」や「終末期における全人的アプローチ」について各国での現状について情報共有できました。「終末期における全人的アプローチ」のセッションに続いて「仏教の観点から見た『いのち』:看護とケアの文化的背景を探る」とのテーマで、郷堀ヨゼフ先生よりご講演頂き、生きること、死ぬことについて考える機会になりました。さらに「痛みへのマネジメント」のセッションは、親の会とジョイントすることで、痛みのあるこどもの家族の体験についても学ぶことができました。今回も、ハートリンク共催からの寄付により看護セッションすべてで同時通訳を入れることができ、言語が異なる発表について正確に理解し、ディスカッションを深めることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。SIOP Asia2025はSaudi Arabiaでの開催になります。是非ご参加ください。

日本小児がん看護学会
理事長 小川純子



★第20回小児がん看護研修会のご報告★

2024年8月24日(土)東京にて、小児がん看護実践セミナー「小児がんのこどもが“おうち”で過ごすことを支えるために」を開催しました。現地とオンラインの開催で、総勢で65人にご参加いただきました。

今回は、療養場所の選択肢の一つとして、こどもや家族が“おうち”で過ごしたいと希望した時に、それを叶えるために、どのような支援ができるのか。「小児がんの在宅医療の現状」について、子ども在宅クリニックあおぞら診療所せたがやの大隅朋生先生にお話をいただきました。また、看護師の立場から、三重大学医学部附属病院の井倉千佳さんに「在宅で過ごしたいと願う小児がんのこどもと家族への支援」について実践例を踏まえてご紹介いただきました。

現地開催のグループワークでは、過ごし方の希望に関するこどもの声をどう聞き取っていくか、在宅以降において多職種チームや医療機関との連携における実際や課題について学びあう機会になりました。



教育委員会委員
津村明美



との葛藤、サバイバーとして一生がんとともに生きていくことなどから、医療者は長期的な精神的支援の必要性を認識することが重要だと感じました。また、現場では新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに実施できなくなった支援があります。これらを必要としているこどもや家族がいること、そして医療チームにとっても癒しになることを再認識することができました。これらの支援を再構築できるよう取り組んでいきたいと思いました。

ラウンドテーブルランチョンは、症状アセスメントとマネジメント、終末期ケア、フォローアップ、トランジションなど15のテーマに分かれて開催されました。私はQIプロジェクトによるケアの改善を議論するグループに参加し、アメリカ、オーストラリア、インドから参加された7名と交流しました。様々な指標を実践に落とし込み、実際にケアを改善するには時間がかかりすぎるのが共通の課題でした。もっとタイムリーな実践につながる仕組みが必要で、看護管理者として自身ができることを考えたいと思いました。

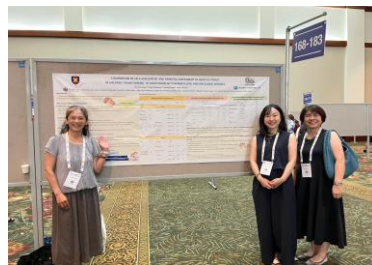
3日目の早朝に開催された「SIOP Fun(d) Run & Walk」では、6時30分のまだ夜が明けない中、アラモアナビーチパークに集まりました。朝焼けのダイヤモンドヘッドに向かって走り、途中で参加者と一緒に記念撮影、とても気持ちの良い楽しい時間でした。

国際学会への参加はハードルが高いのですが、今回参加し各国の看護師と意見交換することで新たな挑戦に取り組むきっかけをもらえました。SIOP2025は、2025年10月20~23日にオランダのアムステルダムで開催されます。研究職だけでなく実践に携わる多くの看護師、看護管理者も参加できることを願います。

★SIOP2024のご報告★

SIOP2024は、2024年10月17日から20日、アメリカのハワイ州で開催されました。日本からの発表演題数は40余りで、会場やホテルでも日本人を見かけ、意見交換をすることができました。

印象的なセッションとして、「Grief in Parents of Childhood Cancer Survivors」と「Complementary Interventions」が挙げられます。治療を終えた子どもの親が抱く、将来への希望と現実



茨城県立こども病院
看護局長 平賀紀子



◆Buzzy ミニのご紹介◆

昨年9月に開催しました国際交流委員会企画第2回国際セミナーで、英国のGreat Ormond Street Hospital for Childrenの痛み専門のClinical Nurse Specialist、Rebecca Saul氏に「がんをもつこどもの疼痛緩和」についてご講演いただきました。その中で、英国のこどもに人気の疼痛緩和のデバイス『Buzzy ミニ』が紹介されました。

Buzzy ミニは「注射を嫌がるこどもをもつママの助けになりたい」という1人のアメリカ人医師の思いから開発され、注射の痛みと注射に対する不安や恐怖心を和らげる効果のあることが海外の臨床研究にて報告されています。Buzzy ミニは、可愛らしいハチやテントウムシの格好をしたデバイスを使用して注射部位を冷やし、細かく振動させることによって、痛みの伝達経路を遮断することで鎮痛効果を得るというものです。使用方法について学会HP(【情報提供】[Buzzy ミニの使用方法](#) ←ここからアクセスできます)でご紹介していますので、ぜひご覧いただき、こどもへの疼痛緩和ケアの選択肢のひとつとしてお役立てください。(右にあるQRコードからも、学会のHPにアクセスできます)



原田産業メディカルチームの
承諾を得て写真を掲載





◆第23回日本小児がん看護学会学術集会のご案内◆

第23回日本小児がん看護学会学術集会のテーマは『全てのこどもの未来のために～For the Future of All Children～』です。2025年11月19日(水)から21日(金)に福岡国際会議場で開催します。

平日開催ではございますが、様々な背景のこどもの未来を明るくするために、我々ができることを考えていけるような魅力的な企画を用意して参りたいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第23回日本小児がん看護学会 学術集会長
九州大学大学院医学研究院
植木慎悟

◆日本小児がん看護学会評議員選挙のお知らせ◆

2025年2月上旬～3月上旬の期間に評議員選挙がweb投票で行われます。選挙の公示はHPとメーリングリストからお知らせいたします。また、規程で定められている選挙権を持つ会員の皆様にはweb投票の方法をお知らせするお手紙を選挙前にお送りいたします。ご連絡先住所のご変更などは、11月中にお済ませください。投票期間に投票を頂けますよう、ご協力申し上げます。

選挙管理委員会委員長
小林京子

◆令和4年度第10回研究奨励賞受賞者のお知らせ◆

令和4年度の受賞者は以下7名で、第21回学術集会後(2023年9月30日)に授与式が行われ、小川純子理事長より授与と選考理由の発表がされました。おめでとうございます。

受賞論文を含む2023年度までの学会誌は学会HPより閲覧頂けます。

【受賞論文】

著者:井倉千佳、末藤美貴、河俣あゆみ、岩本彰太郎、
出口隆生、堀浩樹、平山雅浩

タイトル:学童期以降に発症した小児がん経験者が退院後に抱える困難と必要な支援

掲載雑誌:小児がん看護 Vo.16.No.1.p7-21.2021

学術推進委員会委員長
河俣あゆみ

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、2024年4月～2025年3月へ変更いたしました。

本年度は、2月に評議員選挙が予定されておりますので、2024年度の振込みがお済みでない方は、お早目をお願いいたします。

[会費振込み先]

郵便振替口座:00590-9-79689

名称:特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会



日本小児がん看護学会

理事長 小川純子

ニュースレター担当

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 塩飽仁
京都橘大学看護学部 堀妙子

[連絡先] E-mail: hsiwaku@med.tohoku.ac.jp

